

高齢化社会における望ましい余暇関連施設開発に関する意向分析

立命館大学理工学部

正員 春名 攻

立命館大学大学院

学生員 ○大島 良彦

1. はじめに

これからの都市(地域)整備計画を考える際には、これまでのようなハードウェア中心の考え方だけでなく、地域をマネジメントしていくためのソフトウェアを併置した計画案を検討することが必要であり、さらに社会的ニーズを捉えた計画案の検討を行うことが重要である。さらに、高齢化社会を迎えた現在においては、今までのように働き盛りの層を中心とした都市づくりや施設づくりの考え方だけでなく、弱者となった老人でも健全にかつ安心して活動できるような施設の開発を同時に考慮していくことも必要である。

本研究では、上述のような視点から、高齢者の余暇時間の使い方や要望という点に焦点をあて、高齢化社会に対応した望ましい都市づくりや施設づくりの方法論に関する分析を行うこととした。すなわち、高齢者を対象としたリゾート・レクリエーション施設整備に関するアンケート調査を行い、システム論的にそのニーズを捉え、高齢者の方のリゾート・レクリエーション施設を整備していく上での重要なポイントや問題点を整理していくこととした。さらに、調査分析結果を若年層のニーズと比較を行うことにより、今後の都市づくり・施設づくりのための計画情報を求めるために、多方面からの分析及び検討を行った。

2. 高齢者のためのリゾート・レクリエーション施設把握のための分析に関する考察

本研究においては、新たな第2の人生ともいえる老後の期間を生きがいを持って、健康に過ごせるような社会基盤の整備が必要であると考えた。そのためには、余暇活動におけるレクリエーション施設整備に対する高齢者のニーズを十分把握していくことが、高齢化社会での施設整備計画策定において必要

かつ重要な前提条件であると考えた。そして高齢者の生活活動の場として、比較的手軽に趣味・娯楽や学習活動を行え、さらに心身のリフレッシュが行える快適な余暇空間の創造が、高齢化社会に対応したリゾート・レクリエーション施設の整備計画における重要な意義であり、重要な役割であると考えた。そこで、他の年齢層と比較して、高齢者の方の余暇活動に対する意識を把握するために、調査項目の分析を行った。

(1) アンケート調査項目

人々の余暇時間におけるレクリエーション行動に影響を及ぼす調査項目として、個人の属性、学習機会の満足度、余暇意識、今後の学習希望、グループ活動の実態、などを把握していくこととした。さらに今後の高齢者の方の余暇関連施設の利用形態を、他の年齢層と比較して把握していくこととした。また、アンケート調査項目として表1に示している。

(2) アンケート実施結果

アンケート調査としては、対象者を京都府に在住の17歳以上の男女に限定し、マーケティングリサーチ的手法を参考として調査を行った。

(3) アンケートの一次分析結果

a) 余暇関連施設の必要度

今後、学習や文化、スポーツなど活動をより一層進めていくために利用したい施設としては、「生涯学習センターなどの総合学習施設」が40.3%、「運動広場、体育館などの体育、スポーツ施設」が38.0%、「公園、緑地、キャンプ場などの野外施設」が35.7%、「文化会館などの文化施設」が29.0%という割合になっている。以下、「図書館などの学習施設」が21.4%、「美術館、博物館などの施設」が18.9%、「福祉会館などの福祉施設」が16.6%、「公民館、集会所などの施設」が15.2%となっている。

60歳以上の高齢者で上位4位の施設をみると、「公民館、集会所などの施設」、「生涯学習センターなどの総合学習施設」、「文化会館などの文化施

表1 アンケート調査項目

<生涯学習についての意識> Q1 生涯学習という言葉	<余暇意識> Q11 平日の平均自由時間 Q12 休日の平均自由時間
<生涯学習の必要性> Q2 必要かどうか 付問 理由 <学習活動の現状> Q3 自分での学習、習い事の有無 付1 内容（9項目） 付2 目的（8項目） 付3 学習方法（10項目） 付4 場所（6項目） 付5 施設までの所要時間 付6 費用一年間分（9項目）	<京都府の特色ある生涯学習> Q13 学習活動の事業の展開方法 （1）歴史的な遺産を生かした学習 （2）京都の資源を生かした学習 （3）年中行事を活かした学習 （4）新しい京都らしさが出る学習 （5）大学や高校などの開放 （6）京都のアカデミズムを活かしたもの （7）不眠がなじみやすい事業展開 （8）地域性に応じた事業展開 （9）地域ごとの交流ができるような展開
<グループ、学習活動の実態> Q4 グループ、団体活動の参加の有無 付1 どのようなものか 付2 今後の参加の希望 付3 どのようなものか 付4 参加したくない理由	<学校解放> Q14 開放講義を知っているか 付1 増やしたほうがよいか 付2 どのような開放講義
<学生や就業者の関心> Q5 （学生の方のみ） 専門学校、カルチャーセンターへの参加 Q6 （就業者の方） 自分の仕事の時代の影響を受けているか	<今後の学習希望> Q15 学習したいと思うことがあるか 付1 どのような内容の学習 付2 どのような方法か 付3 どのくらいの支出 Q16 大学や短大の社会人入学 Q17 現在の生活
<学習に対する満足度> Q7 学習したいことで実現しなかったこと 付1 内容 付2 理由	<基本的属性> Q18 性別 Q19 年齢 Q20 未婚 付問 共働きか
<学習機会への満足度> Q8 学習活動の情報 付1 情報を得るところ 付2 情報を得る方法 Q9 居住地域の施設の充実度 Q10 今後必要な施設	Q21 同居家族 Q22 1番下のお子さんの成長段階 Q23 職業 <その他> Q24 京都らしさとはどのようなことか Q25 京都府の学習活動に関する要望

られなかった。

（4）アンケートの高次分析

（a）高齢者の余暇意識に関する分析

他の年齢層と比較して、高齢者の方の意識を明確にするため、数量化2類を用いて分析をおこなった。

高齢者層の特徴としては、一般に余暇行動の最も重要な影響要因として考えられている時間的条件と経済的条件について、比較的満たされた層であった。しかし、「活動の情報」では情報を得ている、「文化・スポーツ施設の充実度」では、充実しているとしながらも、「団体活動への参加」、「学習や習い事」にはあまり参加したことがない。このようなことから現状維持派であり、特に新しいことはしたくないという比較的消極的な意識であった。

3. おわりに

設」、「運動広場、体育館などの体育、スポーツ施設」となっている。

地域別でみてみると、それぞれの地域で「生涯学習センターなどの総合学習施設」が最も高く、次いで、「運動広場、体育館などの体育、スポーツ施設」、「公園、緑地、キャンプ場などのレクリエーション施設」となっている。中部では、「文化会館などの文化施設」が高い。

b) 生涯学習の必要性

生涯学習の必要性についての質問に対しては、約90%が「必要だと思う」と回答しており、「必要だと思わない」という回答はわずか5.4%である。

60歳以上の高齢者でみてみると、「必要だと思わない」が約15%であるのに対し、他の年代は約3%であった。

地域別でみてみると、「必要だと思う」がそれぞれの地域で約90%であり、地域別の違いはあまりみ

本研究においては、高齢化社会となる今後のわが国において、高齢者を含めた社会の構成員全ての人々が、健全に安心して生活を楽しんでいただけるようなリゾート・レクリエーション施設の整備に関するニーズを把握するために、前述のようなアンケート調査を行った。ここでは、余暇活動のための施設整備に関する人々の意識や要望をおおまかに捉えた上で、特に高齢者の方の施設整備に対する要望も捉えることができた。

今後は、このアンケート調査結果をさらに詳しく分析、検討していく予定である。さらに、性別、年齢を越えた共通のニーズの違いについても明かにし、今後の高齢化社会において求められている都市づくりや、リゾート・レクリエーション施設に対するニーズを明らかにしていく必要がある。